

様式 2

平成24年度 第2回安曇野市図書館協議会 会議概要

1	審議会名	平成24年度 第2回安曇野市図書館協議会
2	日 時	平成24年10月26日 午後1時30分から午後3時15分まで
3	会 場	穂高交流学習センターみらい 多目的交流ホール
4	出席者	内田会長、田村副会長、丸山委員、野本委員、青木委員、牛越委員、下川委員、須澤委員、木船委員、会田委員、新沢委員、今泉委員
5	市側出席者	丸山教育長、三澤文化課長、青柳中央図書館長、宮下豊科図書館長、清水三郷図書館長、丸山堀金図書館長、百瀬明科図書館長、小林図書館係長、勝家図書館係主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成24年11月4日

協 議 事 項 等

1	会議概要
	(1) 開会 (三澤文化課長)
	(2) あいさつ (内田会長) (丸山教育長)
	(3) 新任職員の紹介
	(4) 協議事項
	①図書館フェスタ報告
	②図書館満足度調査結果について
	③平成25年度事業計画について
	(5) その他
	(6) 閉会
2	審議概要
	(1) 図書館フェスタ報告
	(委員)
	おはなし会の方で参加させていただいたのですが、私は委員になっているので、参加人数等を教えていただいている。他のおはなし会だとか、マジックショーだとか、いろんなものやってくださった方には、フィードバックというのはどういう形でされるのか。
	(事務局)
	フェスタに参加いただいたボランティアグループの反省会というのを改めて開催する予定をしておりますので、そのなかで報告をさせていただく。またその場でもご意見をいただいて、今後のフェスタにも生かしていきたいと考えている。
	(委員)
	アンケートとりっぱなしというのが一番残念なことだと思うので、アンケートを見てすぐ改善できるもの、それから中長期的にわたって徐々に改善していくもの、きちんと仕分けをして、できるものからどんどんと改善して行って欲しい。せっかくとったアンケートなので、ぜひ皆さんで検討していただいて、いい方向につながっていただきたい。
	(事務局)
	委員さんのおっしゃるとおり、できるところから実施したい。
	(委員)
	リサイクルコーナーがどういうものか説明して欲しい。個人で頂けるのか、施設でないといけないのか。
	(中央図書館長)
	リサイクルコーナーは、除籍本、古くなった本を市民の皆さんへ無料で提供する。個人でも大丈夫。おひとり10冊という範囲で、お持ち帰りいただいている。雑誌もたくさんあるので、それも展示ギャラリーへ展示して、持ち帰りいただいている。ただ、公共の学校または、特に多かったのは、保育園等で子どもたちに活用したいということがあったので、前もって保育園の方においでいただいて、一般の方に行く前に、お持ち帰りいただいた。
	(2) 図書館満足度調査結果について
	(委員)
	テレビで専門家が言っていたが、アンケートの項目について、どちらでもないという項目を設けると、大体日本人はそちらを選ぶ傾向があるということだった。どちらでもないというのを選んだ人に改めて、イエスカノ

一か二者択一で聞いてみるとちゃんと答えがでてくる。わからないというのはそれでいいと思う。また今後アンケートを取られる時にはその項目に関してもご検討いただきたい。

(委員)

これを読んだ上で図書館としてこのアンケートから得られるもの、喫緊で直していかなければならないこと、もしくは問題点。ここから、アンケートから出てきたものを3つ、それに対しての解決、施策をお聞かせください。中央と豊科に関しては施設が立派なので、施設、中身に関しては問題ないと思う。三郷から堀金、明科について、このアンケート結果からは非常にいい結果が出ている。三郷は老朽化してるけれども、支所との関係が非常にスムーズにいく。あったかくできてるといのがこのアンケートから読み取れる。堀金は本が非常に借りやすい。欲しい本が見つかりやすいという結果が出ている。明科に関しては、レファレンスに対しての答えが非常によく出るとい答えがここに出ている。小さいところはそれなりに非常に個性が出ている。図書館としての、機能をとてもよく果たしているんじゃないか。豊科、中央に関しても、ここから読み取れる問題があると思うので、それを是非お聞かせいただきたい。

(中央図書館長)

中央として専門書、これについては収集して蔵書として置くべきだということを、アンケート結果の中から、専門書がもっと欲しいという声もある。これは我々としても非常に大事な改善点として考えたい。選書会の中でも、専門的な図書等も充実させていきたいとそれが1点で。2点目は、レファレンスにつきまして、利用者の方々に意味だとか、使い方等がなかなか浸透していない。中央館としてPR、使い方についても説明を丁寧にやっていきたい。3点目は、職員の対応。努力はして研修は積んでいるが、さらに利用者の立場に立った利用方法と言いますか、検索、資料案内、言葉受けひとつ、あいさつひとつについても、気持ちよくできるような形で、していかなければいけないというご指摘等もいただいている。この3点は特に早急に取り組んでいきたい。

(豊科図書館長)

豊科図書館としては、アンケートを見て非常に心強く思っていることは、職員の対応について非常に評価していただいていること。親切丁寧な対応がなされていることを書いていただいている、大変ありがたいと思う。そういう点を一番に大事にしていきたい。このことを意に強くして頑張っていきたい。2点目は蔵書との関係、児童書の事が触れられており、非常に充実しているということで評価をしていただいている。豊科図書館は中央図書館に比べると蔵書は3分の1近くだが、蔵書割合としては児童書が高い。隣に近代美術館があり、美術の関係の本を揃えている。そういうことを意として蔵書をしている。それから、地域資料が充実しているということを来館者の方から評価をしていただいているが、特色を生かしていきたいと思っているが、一方、雑誌が物足りないというアンケートもいただいている。ただ、中央館の方が、月刊誌等を含めて180程雑誌がありますが、豊科館は50ちよつとの雑誌であり、基本的に豊科館としては中央館にない雑誌を揃えようと思っるところがある。これについては、またご意見があるうかと思う。まずは、たくさん読まれる雑誌もあっていいと。選書の方針としては、中央館がとってない雑誌をそろえようという意図を汲んで経営されてきているが、雑誌の事もご意見いただいているので、考えていかなければいけない。施設の事で褒めていただいているが、開館時間を延ばしてほしいということも出ている。中央館は夜8時までであり、豊科館はあれだけの施設、設備があるので遅くまで開館して欲しい、仕事の帰りに寄りたいたいなどというご意見もいただいている。昨年は夏に要望を受けて開館時間を延長したというようなことがあったが、皆さんからぜひと言われた割に、あまりそれだけの人に来ていただくことがなかったということがあり、今年やっていないわけですが、時期をみながら延長するというようなことも、課題だと思っている。職員数の関係もありますので、考えながらこのアンケートをもとによりよい図書館づくりをしていきたい。

(委員)

子どもたちはとにかく本を読みたいと思う。本を読みたいのだけれども、お家の方がお仕事でお忙しくて、図書館に来れない。そういうお子さんはいっぱいいらっしゃると思う。学校が窓口になって、連れて行ってあげることはできないだろうか。何か子どもたちが本と接する時間を、学校側としてお手伝いできないだろうか。ちょうどみらいができたころ、南小におりまして、せっかくなこんな施設ができたので、ぜひ子どもたちを連れていきたいなと思った。実際にそういう窓口というか、レールみたいなものが、なかなかできなかった。もし、そういう場と言うか、こちらから働き掛けもさせていただきますが、協力してそういう機会を設けていただくということは、またこれからみらいで子どもたちがどんどん学習を進めていったりすることが、レファレンスにもつながっていくと思う。域の図書館に借りに行きましょう。調べましょう。インターネットこれも信憑性がない場合もある。ずっと入れるような受け入れ態勢というか、そういうようなものもあつても学校現場としてはとてもありがたい。もしそういうことを考えていただけると、私たち学校職員として困っている部分もあるし、こどもたちにもできる限りの情報を提供してあげたいと思っている職員は多々いる。そういうところを汲みとって、道を開いていただけるといい。

(明科図書館長)

オープン当時、穂高南小学校で見学に来ていた。そういった利用の仕方はあるし、先生たちの熱心度によって図書館を利用されるかわ変わってくる。図書館と学校図書館が連携していくことはわれわれの課題であるので、今後とも話し合いをしていきたい。

(中央図書館長)

学校図書館との関係について、幼稚園、保育園、小中高の学校図書館へアンケートをして、公立図書館との連携で何ができるか考えている。団体貸出については、現在も利用可能であるので、大いに利用していただきたい

い。そのことを、学校図書館司書の方によく理解していただくということで、学校図書館司書と公共図書館の司書の会合に、私どもが出たりして、どうしたら上手くいくかということを考えてまいりたい。中央図書館では、子どもたちが参加できる図書館ツアーも用意している。そういったところに参加していただければ非常にありがたい。それから、中学校、高校、大学での職場体験。先生の10年研修でもお出でいただいている。今年から、図書館よりも各学校にお配りしている。私どもとしても、学校図書館と連携をとっていきたいと思っている。

(委員)

利用者のマナーについて、どこまでは注意して、どこからは構わないというような線引きはあるか。

(中央図書館長)

図書館マナーブックのとおり、ご遠慮いただいている。

(委員)

アンケートをとる側としては、仮説を確認するという目論見があったと思うが、いかがか。

(中央図書館長)

施設等の満足度は予想通り。中央館、豊科館が高いだろう、他の館は満足度が低いだろうと予想をしていた。今後、堀金館、三郷館については改善して良い方向へ持っていきたいという風に進んでいますので、そのところに生かしていきたいと考えていた。また、レファレンスとか視聴覚関係、配架の關係に課題があるだろうと。職員のサービスについても、意見が出てくると予想をしていた。職員、配置、環境的なものを改善していく必要があるということを考えており、こういう項目を立てたが、私、個人的な予想通りの結果が出てきたと感じている。中央館なら先ほどの3点を改善していかなければいけない。豊科館でも違う観点で結果が出ましたので、改善しなくてはいけないと考えている。

(委員)

三郷では、市ができる前に図書館を改造するという構想があった。ところが、合併したら計画もしていなかったところが先にできてしまった。三郷だとか堀金だとか先ほど問題が出ましたが、長い10年計画くらいでも結構だと思うので、きちっと整備していただきたいのが1点。高齢の方が亡くなられたときに、その中に専門的にその道を極めたという方が大勢いる。そういった方の今では買えない蔵書。そういったものを文書館ができるような方向で考えていかなければいけないのではないかと。将来は、これは文書館に残すとか、買えない本は手に入れるとか、そういった方向で考えていただければありがたい。それから、家庭で注文する(図書等の予約)ということについて、見通しを教えてください。それから、雑誌はそんなに必要なのか。必要ならば自分で買えばいい。眠ったりしている人に対して、職員の人が注意することも大事ですが、周りに人が声をかけるようなそういったところが何かできないのか。人に頼りすぎというか、そんなことを思う。

(事務局)

施設整備の關係は遅れている部分はある。これについては、総合支所建設プロジェクトという、5支所の建設プロジェクトがあり、その中で建設計画を練っているところ。現段階では公表できない部分もあるが、他の地域に肩を並べるような図書館の建設の計画を検討している。方向性が決まりましたら、皆様にもお知らせしてまいりたい。もう1点、インターネットを利用しての図書の予約。システム的には近いか入れられる状況になる。実施するには、規則の整備が必要で、整い次第早い時期に導入してまいりたい。今しばらくお待ちいただきたい。

(中央図書館長)

郷土の貴重本については、中央館だけでなく、他の館ももちろんそうだが、大事に収集していきたい。もし、委員さんで貴重な本を寄贈いただけることがあればありがたいと思いますし、できる限り購入を検討してまいりたい。雑誌については、図書館で利用したいという方もいるので、ご理解いただければありがたい。マナーについては、トラブルになることもあるので、気になる場合は職員に言っていただいて、対応している。利用者の皆さんの全体的なマナーの向上。私どもの方からも色々な機会を通して、向上を図ってまいりたい。

(委員)

アンケート結果の公表、このことについては対策を打つということをPRしていただきたいと思うがいかがか。

(中央図書館長)

皆さんに提供できる形になっていない。この中でご意見を賜わり、市民の皆さんにはこういう結果がでたとい形で提供したい。どういう形になるか検討したい。

(3) 平成25年度事業計画について

(委員)

学校の職員でも図書館の利用方法を知らない職員が多い。事業計画にも、図書館訪問の実施と資料の利活用と書いてあるが、その他にも何か楽しさを伝えることはできないかと考えていける場を設けていただくと変わってくるのではと期待し、提供させていただく。

(委員)

インターネット予約に関して、どうなっているのか全く読めなかった。計画は立てていると思うが、具体的に教えていただきたい。アンケートを見ても、非常に期待度が高いということもある。それから、11月7日、8日にシステムが止まる。ここで、できるようになると思っていたがそうではないらしい。

(事務局)

11月7日、8日にシステム改修を行い、システム的にはできるようになる。ただ、実施するに当たっては教育委員会で規則を整備しないと実施できない。いずれにしても、来年度には実施できるように考えている。

(委員)

25年度からか。

(事務局)

できれば4月早々からスタートしたい。

(委員)

整備と言うのは、条例とか規則的なものか。

(事務局)

おっしゃるとおり。内部的な事務手続きの関係。ご理解いただきたい。

(委員)

期待しています。

(会長)

その他になりますが、事務局から。

(事務局)

松本山雅出資に伴う教育委員会と図書館系の施策について、お配りした。1点は既に終了したが、7月1日～8月26日まで、松本山雅FCの選手が推薦する図書を館内に掲示し、図書館利用拡大と松本山雅のPRを実施した。それから、明日からになるが、10月27日から11月9日まで、秋の読書週間が始まる。松本山雅FC秋の読書週間2012ということで、松本山雅の4名の選手のしおりを山雅で作成し、本を借りていただいた方に1枚ずつ配布する。そんなことで、利用者への配布を実施するので、委員の皆様にもお知らせさせていただいた。